

2023年11月2日(木) 晴

今日も秋晴れ、日中は25℃、夏日の予報。11月になっても地下鉄車内にクーラーがかかっているというのは、やはり異常。8日は立冬だけど…。

— 彼は何をおもって —

今朝のessaisで話した出来事、彼はなぜ顔を確認しようと思ったのか。7時前の地下鉄車内、いつものように開かないドアの片方に立って、手すりにフックを使ってカバンをかけ、メモ帳を手にもいろいろをアイデアを練っていた、仕事や書き物の。

そして時々カラダを左右にちょっと揺らして、柔軟体操のつもり。車内の人たちはほぼ下を向いていて、顔もあげない、他の人のことは見ていない。そばに立った男性も乗ってくるなりスマホを始めた。

想像してみると、なかなか面白い。朝はやいから車内に人は多くないが、大半の人が自分以外のことに気をとられている中で、ほぼ一人、自分に気をむけて、人知れず自分のルーティンをしている。

そう、そのルーティンに彼は気づいたのかもしれない。途中でスマホをやめた。スマホを見られたくないのか、少し気にしている感じは気づいていた。やめる人はあまり見ないから、一瞬、おやっ?と思った。

降車駅に着いたら、その彼も同じ駅で降りた。先を歩き、持っているカバン、うしろ姿を見ながら、階段をのぼる後ろをゆっくり上がった。どうやら乗り換えも同じらしい。

電車到着まで時間があるので、ホーム壁のポスターをチェックしながらぶらぶら歩いていると、同じ方向へ彼も行っている。人が少ないので、すぐわかる。ひょっとして同じ北浜駅で降りるのか?

ポスターに目をもどして、次にホームをみた時には、姿がなかった。うん?と思い、ベンチをみたら、こちらを見ている男性、目が合った、彼だ。なにげに目をホームに戻していつもの乗車位置へ進み、側を通りかかったと同時に、彼が立った。

電車はまだ来ないのに、うん? するとホームを元へ戻っていく。後ろ姿を追ったら、なんと、改札の方へ向かった。ここで降りる人だったのか? ひょっとしてこちらをどんな人物かはっきり見たくて、先を行った?

今日はここ最近より早い時間の電車に乗った。同じ時間の電車ならまた会う可能性はある。本人に尋ねるわけにはいかないけど、次の反応を試してみるのもわるくない。

—今日の「モンテニュー」—

(親友との出会いについて)「そこには、わたしのとうてい理解できないところに、それについてわたしが具体的に述べ得ることの彼方に、何かわたしにはわからない、この結合の仲立ちとなる、説明のつかない運命的な力がある。われわれは互いに会うことになる以前に、お互いについて人伝てに聞きおよぶ事柄によって互いに求め合っていた。それらの評判は、われわれの感情の上に、その正当な内容およぼす以上の影響を与えるのだった。それは天の何らかの配剤によっているように思われる」

2023年11月2日(木) 午前7時20分頃、北浜駅前堺筋線の街路樹



2023年11月7日(火) 曇→晴

夜中に雷雨、風もつよくて、目がさめた。早朝はまだ雨が降っていたが、あがり、徐々に晴れてきて、日中の気温は20℃前後の予報。もう夏日のようなことはないか。

— バランス —

今では電車の中で新聞を読む人を見るのも稀。だから読んでいると目立つ。とくに今朝みた人はカジュアルな服装の若い人だったから、何をしている人だろうと、ちょっと興味をもった。

日経の購読料もこの夏に値上げされて、これを機にやめようかと一瞬おもった。でも何でも広げて見たい方なので、やはり新聞は捨てがたい。ネットだと、面型思考には、情報が自分の頭に中にまとまりにくい。

新聞は政治・経済から科学・文化・社会と幅広く一覧できるのがいい。時々自分にとって興味深い情報にも出会う。直近でいえば、腸内細菌の善玉・悪玉という考え方は過去のもの、という話。善玉といわれる最近が悪さをすることもあって、善悪ではなく、バランスが肝心なんだとか。

そのバランスに一番悪影響を及ぼすのが、「投薬」という解説には、わかる気がした。日常の生活情報に接していれば、人工的な薬がいいはずはないという意識は大半の人は持っているのではないかと。

知人にお肉も魚も食べられない人がいる。野菜中心の食事はいいとして、食べる量が少ないので、今年の長い夏なんかは大変だったんじゃないかと心配になる。でも独自の運動は続けているから、保っている。

先日いつもの個人美容室へ2か月ぶりに行って、雑談の中でこの知人の話をしたら、「お坊さんの感じですね」。うん？

修行僧たちは量のすくない精進料理をとりながらお勤めをしていて、それでいて、いたって健康だから、同じようなものじゃないですかという。言われてみれば、そう、たしかに…。どこかでバランスがとれている。

そう考えればよかった。食べられればいいというものでもないですね。

ー今日の「モンテニュー」ー

わたしはよく、ある楽しみをもって、死のいろいろな危険を想像し、期待してみることがある。わたしは頭を下げたまま、死を考えることも認めることもなく、ちょうど沈黙した暗い淵の中に飛び込むように、ただ茫然とその中に飛び込んでいく。そしてそれは一息にわたしをのみこみ、無味と無感覚にみちみちた強力な眠りによって、一瞬のうちにわたしを圧倒するのだ。……わたしは、死んだあとの状態から考えを遠ざけようとするよりも、死ぬことに対して信頼をおくようにする。わたしは、この嵐の中で身を蔽い、小さくうずくまれば、それはすばやい、感じるこもない打撃を加えてきて、わたしを盲目にし、たけり狂ううちにわたしを奪い去っていくに違いない。

2023年11月10日(金) 雨

今日は一日雨、この雨が気温を元にもどしそう。昨日もまだ日中の地下鉄車内には冷房がかかっていた。今日も今のところ、ムシとする。週末以降はようやく秋冬ものを着られそう。

ー ブラックvsホワイト ー

労働がブラック化してきている。3年ほど前からそう感じている。ごく普通の人たち、時にはエリートがブラックな仕事に手を染める。身勝手、厚顔な自尊心で起業し、行き詰れば簡単に雲隠れする経営者もいる。

ラクに簡単にお金儲けするのができる人間と勘違いしていきそうな面々もいる。昨夕のニュースで知った人材派遣会社、偽装取引で高額なポイントを獲得した経営者らの実相は、さていかに。

ブラックに対して使うホワイト、労働のホワイトさを維持するのにも、けっこう自制心の要る世の中。事業活動はいい時もわるい時もある。わるい時に、「魔がさす」こと少なからず。

今日の朝刊社会面の記事はその一つ。国際ロマンス詐欺のマネーロンダリングに小企業経営者が加担している事件。デジタル社会が悪事を広範にやりやすくしていることもある。

「魔がさす」ことは誰にでもあり得る。それを念頭にいれておくと、一定の自制は利く。今でも昨日のここのように憶えている一場面。独立を決意して、その準備に動き回っている時、淀屋橋駅を降りて階段を上る時に降りてきた自分自身への訓言。

“おそらく、必ず、窮地の局面が訪れる、それは目に見えている、でも、けって目先の利益に惑わされまい…!”

残り時間は少ないが、これを維持して、訓言の意義あり。。

ー11月9日の「モンテニュー」ー

あなたがその主張する事柄によって勝ちを得たならば、それは真実が勝ちを得たのだ。秩序正しさ、運びの良さによって勝ちを得たならば、それはあなたが勝ちを得たのだ。

2023年11月15日（水）

ホスピタリティーアート in ギャラリー2023

<https://www.hito-iro.com/hospital-art-in-gallery/>

今日が初日、午前中に行ってきました。ひょっとすると一番乗りかと思ったら、もう先客が2名。わたしの後も一人、二人と続き、5年の実績を物語ります。新聞の取材も予定されているそうで、孤軍奮闘してきた甲斐もあるというもの。よく頑張ってるなあとあらためて感じました。







2023年11月13日(月)新月 雨→晴

一日雨かと思ったら、夕方から晴れてくるらしい。昨日からぐっと気温が下がり、今日は最高でも13℃の予報。いよいよウールの出番。寒暖差に注意し、風邪予防。

－ 読者レビュー －

先月から『モンテニュー』（荒木昭太郎 中央新著）を音声で再読している。著者のモンテニューへの心服ぶりをあらためて感じ、不遜ながら、微笑ましい。気持ちがよくわかるから。

最初に読んだのは20年以上前になるが、読んだ後にたまたまアマゾンの読者レビューを目にすることがあった。一番トップのレビューを読んで、目をまるくした。

著者の想い入れの強さをわたしは好感し、むしろそれが良かった。でもレビューの人は違った。さんざんけなしていた。この時とっさに感じたこと、“実際に読んでいないと、このレビューに左右されたかも。こういうものはあまりアテにしない方がいいなあ…”。

ずっと側に置いておきたい本になる可能性を逃しかねない。やはり自分で判断すること。

ところで、今日読んだ『エッセー』からの引用をうけて、著者の解説する箇所がいい。〈書く〉の大事なポイントを示してくれているよう。せっかくだから書き留めておこう。

「これをもって見ると、彼の探求の仕方は、全体論、概括論は避けること、対象を個別に選ぶこと、対象の多様なありようの各部分を具体的にとらえようとする、かすかすの部分を区別してそれらの個別的な様相をみてとること、できるかぎり徹底して奥深い箇所を見あらわそうとすること、既定の、先入的な、他律的な視覚、手段、論理をしりぞけ、未知の、新鮮な、自在な角度、方法、推論によること、が項目として引き出される」。

と、長い文章が続くんだけど、これらの項目全体に寄与するのが、「弁別」と「対比」とモンテニュー自身が言っているような。弁別とは、物事の違いをはっきりと見分けること。

個人的には人間ひとり一人の違いを見分けることの認識を新たにしている。想像を絶するほど個々人違うことはわかっているけど、その違いの形成が微妙で複雑で、かつそれが進行中というわたしたち。互いにそうなのだから、自他ともに観察の意義あり。

—今日の「モンテニュー」—

(さまざまな主題はどれもわたしにとって同じようによいのだ。そしてそれらをそっくり全部持ち出そうなどとは、けっして目論まわない)。

というの、わたしは、どのようなものの全体も見てとりはしないからだ。われわれにそれを見せようと約束する人びとも、やはり同様に見てはいない。おのおのの事物の持っている数おおくの手足や顔かたちのうちから、わたしは一つだけをとり出し、ある時はなめてみるだけ、ある時は触れてみるよう、そしてときおりは骨まで突き通してみるようにする。わたしはそこを、できるだけ広くではなく、できるだけ深く突いてみる。そして大抵の場合、用いられたことのない光の当て方によって、それらの部分や表情をとらえるのが好きだ。

2023年11月16日(木) 晴→曇

朝一番はよく晴れていたけど、みるみる曇ってきた。今夜には雨になるらしい。だからか、それほど寒くない。ただし油断は禁物。

— 自立 —

今も時々紹介する『男と女の生産性』。2006年6月5日付の日経「あすへの話題」に載った科学者のコラム。男性は20代に急に上がって、30代がピークで、40代に入るを急降下する。女性は徐々に上がっていき、ピークは45才から65才。

個人的な経験・見聞からもこの説に頷いた。この話を女性たちにすると、みなパツと表情が明るくなる。人生100年時代といわれて久しいから、50代の人でも本当にやりたかったことを始めたいと考える人も少なくない。そういう人たちの相談をうけながら、この説をとなえてハツパをかける。

ただ「安定」した環境に長く慣れた人の中には、実際の行動がなかなかできない人もいる。先に行動した人を見て、自身を省みる。そこで気を取りなおして、自分を見つめ、生きなおす決心を内に秘める。こうなったら、強いもの。「生産性のピーク」が効いてくる。

過去から現在までをふりかえりながら、精神的に自立できていなかったと吐露した人が、「これからは、これからは…」と自分に言い聞かせるように、未来を展望する姿。そういう人を目の当たりにするのは仕事のご褒美、これから先の展開を想像して、目をほそめる。

『終わり良ければ総て良し』。

—今日の「モンテニュー」—

（紀元前3世紀ギリシャの懐疑論者・不可知論者ピュロンの所説）この考えは、「わたしは何を知っているのか」という疑問形によっていっそう確実に意味づけられる。それをわたしは天秤の図柄の銘に記入してある。

2023年11月16日（木）

動物園前にある「動楽亭」

旧知の〈市民パトロン〉主宰の落語会。名古屋唯一の一門の公演に上方の女性落語家のぼんぽん娘さんがゲスト。観客はほぼ身内、今回もたぶん、〈持ち出し〉でしょう。



2023年11月21日(火) 晴

今日は風もなく、穏やかに晴れ、気温は日中18℃の予報。絶好の洗濯日和、お出かけ日和。明日も同じようなお天気だそう、「小雪」を迎えるけれど。

－ 演劇 －

世間話ではなく、自分の話をする会話は知の交流そのもの。例えば18日にあった「拠点」のミニサロン「本のもちより会」がそう。自分のおすすめ本を紹介する中でその人の知の領域、感性にふれる。

時には関心事が共通しているのがわかって、話がはずむ。この日はまさか演劇で盛り上がるとは思わなかった。知人に劇団の主宰者はいるけれど、熱心な観劇者という人は知らない。昔の俳優さんたちの名前もパツと通じ、初対面だったけれど、ぐっと親近感をおぼえた。

演劇をみるきっかけは通っていた学習塾の先生方に連れられて。10代の終わりから20代半ばにかけてだから、けっこう観た。民芸、文学座、俳優座、青年座、劇団四季の初期の頃、等等。

いまでも印象に残っている舞台が数本ある。実はつい最近、“ひょっとして…”と自分で注目したのが、この演劇の観劇経験。

読書が精神におよぼす影響を実感、開眼したのはここ数年のことだけど、演劇もまたそうだったのかもしれないと思い始めたところだった。観てきた数々を思い出しながら、それはたぶん、間違いない。

それはさておき、演劇はこれから存在感をます分野ではないか。何でもAIがこなせる社会で、演劇は生身の人間がライブで、その瞬間に何かのメッセージを表していく。凄みがそこにある。

演劇、ふたたびその世界にふれてみようか。

－昨日の「モンテニュー」－

わたしは、簡単に、植物は水分がありすぎると萎れ、ランプは油がありすぎると消えるのと同じように、精神の働きも、勉強をしすぎ課題がありすぎると息の根とめられる、と言ってみてもいい。

不徳は、潰瘍が肉のなかに傷を残すように、魂のなかに後悔を残し、魂はそのためにたえず自分自身を掻きむしり、血を流しつつける。

開けひろげたものの言い方は、相手からのものの言い方を開けひろげ、それを外へ引き出す。酒や恋愛がそうするのを同じように。

2023年11月23日（木・祝日）小春日和、自宅近くの小さな橋の側の銀杏



2023年11月24日（金）晴→曇

水曜も昨日の祭日も小春日和、今朝も風を暖かく感じた。でもこれからどんどん気温が下がるらしい。明日は先週と同じように年末並みの寒さとか。寒暖差にもカラダがすこし慣れてきたような…。

— 安静・休息 —

「デフォルトモードネットワーク」(DMN)を知ったのは2014年7月だった。知人との雑談のなかで出てきた。さっそくネットを調べて2013年の論文を見つけた。その後何度か新聞などで紹介されているのを見た。

DMNとは、「安静時において活動が高くなる脳領域」。全体を読んで、心の安定が創造性などにもかかわると受けとめた。論文の結びには、「DMNの探究は、人間や動物の高次認知機能の解明に貢献して、脳とこころの理解に役立つことと思う」と書かれていた。

どんなに忙しくも休息をとる。個人的にはもともとそうするタチだから、エビデンスを得たような気になった。仕事上でも、休息をとるのも仕事のうち、と折にふれ話してきた。

今朝のessaisでも話したように、そういうことをあらためて考えさせられることが直近であった。〈仕事のうち〉の重要なアプローチである、判断や意思決定にとって、安静・休息はすごく大事なことでないかと。

こころまたは精神が何かによって制限されたり、歪められていると、適切な判断や意思決定ができない。場合によっては、取り返しのつかない不利益を被ることもある。経済的なもの以上に、精神的打撃は酷い。

中井久夫先生の2010年出版の著書に次のような呟きがある。「人間は他の生物から独立した、人が人を食い物にする一種食物連鎖のようなものをつくりだしてしまったのではないだろうか」。

バブル崩壊から成果主義、ネット社会の変遷を同時代で生きながらみてきて、同じような感じをもっていた。「自分の軸」とか「自律」などという言葉を使うようになったのも、2005年頃からだ。

とにかく休息を適切にとり、適時〈われにかえる〉のようにして、中井先生の指摘がさらに増してくるだろうこれからの社会を自分らしく生きていきましょう。

—11月22日の「モンテニュー」—

わたしのなかにある生来の能力について考えてみると、そのためし(エセー)がこの本なのですが、わたしはそれらが重荷のもとで腰をかかめているように感じるので。わたしのいろいろな考えも、わたしの判断力も、手探りで、よろめき、つまずき、ぶつかりながら、やって進んでいきます。ですから、できる限り遠くまで進んだときでも、わたしはすこしも満足はしていません。その向こうにまだ土地があるのが見えますが、ぼんやりと、雲につつまれたようで、はっきりとは見分けることができないのです。

2023年11月27日（月）早朝、西の空にほぼ満月



2023年11月29日(水) 晴→曇

昨日は変わりやすいお天気だった。晴れているとき背中にあたる陽ざしは暖かいというより、ちょっと暑かった。そのうち急に雲がひろがり、雨がぱらついた。寒暖差の激しかった11月も終わる。明後日は12月。

ー 人間こそアート ー

先日21日に演劇のことを書いた。そういえば今年の「プロ講師になろう塾」の受講者に元俳優の人がいた。「俳優座」の演出家について習ったと話していた。

その「俳優座」だったと思う印象にのこっている舞台のいくつかの一つがある町の丘の上にたつ精神科の病院、いや教会だったか、そこに住む若い快活な病者がふもとの町の住民と交流する物語。

そういうプロジェクトだったか、病院または教会の責任者の思いつきだったか、物語の詳細はおぼえていない。でも終演まぎわの、自分がかえった感覚はよく憶えている。

故・米朝師匠の落語、オチで観客がぱっと我に返るような、それに通じる感覚。幕がゆっくり降りるあいだの、若者を演じた俳優の晴れやかな表情にひきつけられながら、“ほんとうに病んでいるのは…、住民の方かもしれない…”と問う。考えさせられる良い舞台だった。

AIはAGI(汎用人工知能)へシフトしていく予想。一説には神の領域へ、なんて言葉が踊る。そうになると、ますます「人間とは」と問うことになる。考えてみるば、人間こそ最大のアート。

ずっと昔からそう考えている人やアーティストとはいた。ごくごく普通にわたしたちがそう考えるようになれば、社会はもう少しよくなりそう、互いをもっと尊重できて。

ー 11月28日の「モンテーニュ」ー

人間がその論述をけんめいに展開して、わたしに、彼がほかのかずかずの被造物にたいして持っていると考えられるあの大仰な優越のかずかずを、どのような基礎の上のうちたてているのか、わからせてもらいたい。いったい誰が彼に、天空の丸天井のみごとな動き、彼の頭上をあれほどに誇り高く回転しているあのいくつもの松明の永遠の光、あのきわまりのない大海のおそろべき運動が、彼への便宜と奉仕のために確立され、何世紀にもわたって継続しているのだと説きつけたのか。